

入学によせて

～平成29年度入学式式辞より～

理事長・学校長 小林 玉枝



学校法人 小林学園 本庄東高等学校附属中学校

きりぐるま

第53号

優しい春の光に満ちた今日、ここに第十二回入学式を挙行し、百十三名の新入生を迎えることができました。保護者の皆さまには、改めて心よりお祝いを申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとう。私たち学園の教職員は、皆さんと今日、ここで出会うことをとても楽しみにしてきました。そして、皆さんが過ごす中学校生活を通して、皆さんの一人ひとりが、自分の持っているさまざまな力を引き出して、大きく成長してくれることを期待しています。そのために、私たちは学びの機会をたくさん用意しています。毎日の学習を始め、校外研修や学校行事など、すべてが皆さんの持っている力を引き出すきっかけとなります。そのきっかけを活かし、自分の力を大きく伸ばしてほしいと願っています。そのために、今日から始まる学園生活の中で出会うすべての人たちが物事を大切にしてください。大切にすることは、出会った人や物事に対して、心を込めて向き合うということです。周りの人との関わりや物事の一つ一つが、みな自分のためになるのだという気持ちを持つようにしましょう。そうすれば、これからの出会いが、皆さんの中学校生活を充実したものにしてくれるはずですよ。

さらに、毎日の生活の中で触れ合う家族や先生方、あるいは友達など、周りの人たちに対して、「素直な心」で接するように心がけましょう。そうすれば、周りの人もより大切にしてくれるはずですよ。そして、周りの人の応援があれば、自分の持っている力をよりいっそう引き出すことが出来るはずですよ。「素直な心」を持って、自分の周りの人たちにたくさん話をしよう。また、私たちは、自分のすぐそばに居る人のことでも、実はあまりよく分かっていないものです。毎日の生活の中で、自分の周りに居る人のことを思いみるように心がけましょう。それが人を思いやるということですよ。皆さんには、「素直な心」とともに、「思いやり」の心を持って、多くの人を大切に出来るようになってもらいたいと願っています。

さて、保護者の皆様には、中学生という多感な時期を迎えてさぞかしご心配も尽きないことと存じます。学校と致しましては、保護者の皆様との連携を密にしつつ、全力で教育に当たる所存でおります。六年間の学園生活におきましては、宜しくご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

新たな自分に

教頭 島田 伸一郎



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。夢に向かってよい中学校生活をスタートさせてください。そこで、今日から始めてほしいことがあります。それは、「自分を変える」ということです。これまで自分の何にも不満や不安のない人もいます。多々、多くの人には、うまく出来なかったことや苦手なものなど、自分に不安を感じたり改めたい所があると思います。また、良くない習慣や性格で直したい所のある人もいます。今日、ここで出会った人たちは、これまでの皆さんのことを知っていません。皆さん自身もまた、周りの人のことを知りません。自分を変えるのに、これほど良い機会はありません。苦手だと思っていたことも、新たな自分に新しい可能性を見出し、夢の扉を開けてください。

「自分を変える」ことは、自分の心持ちから始まります。自分だけでも出来ませんが、一人だけで取り組むよりも、周りの人に話して協力してもらおうのも大切です。そして、あせらないことも大事です。少しずつ変わっていく良いのです。新たな自分に新しい可能性を見出し、夢の扉を開けてください。

合唱コンクール



結果

三月十一日(土)、第十回校内合唱コンクールを行った。どのクラスも練習の成果を発揮し、素敵な歌声を響かせてくれた。今回の合唱コンクールは、私もクラスのみならず、三年間で一番気合が入っていました。私達のクラスの自由曲「証」は、他の曲とは比較にならないほど難しかった。ソプラノ、アルト、男子パートそれぞれに課題があり、練習は困難を極めました。最初は「曲を変えたほうがいいのではないか」と思うことも



ありました。が、課題が見つかるたびに、クラスみんなですみんなど悩み、乗り越えてきました。その甲斐あって、本番が近づくと、本番が近づくにつれて急激に上達したと思います。そして、二年の時になかった「気持ちのこもった歌声」が、隣から、後ろから聴こえてきました。本番では、練習の時に意識していた強弱や緩急をしっかりとつけることができ、私達の全力が出せたと感じます。その結果、最優秀賞をいただくことができました。最高の思い出をくれた、クラスのみんなに感謝しています。(菅原千聖)

大相撲観戦(三年生)

一月十三日(金)

三年生は、両国国技館へ行き、大相撲を観戦した。日本国技の迫力を肌で感じる事ができた。会場に入るとすぐに、お客さんの声援に圧倒されました。会場一杯に響き渡る声援が、心に直接届いてきて、力士にとつてどれほど心強いものだろうと思えました。また、力士たちがぶつかり合う時の緊張感と迫力は忘れられません。校外研修を通して、人が作り出す大きな力や、日本の伝統文化に触れることができました。(山田菜の子)

茶道特別体験(一年生)

二月十日(金)

一年生は二度目の茶道体験を行なった。生徒たちは前回よりも落ち着いた様子で体験できた。今回の茶道体験は、茶道部として「もてなす側」で参加しました。最初はクラスのみんなの視線に緊張し、頭が真っ白になってしまいました。しかし、いつも部活で意識している「相手への感謝の気持ち」を込めてお茶を点てることで、落ち着くことができました。喜んでもらえるような工夫が、友達にも伝わって嬉しかったです。(茅野真子)

陶芸体験(二年生)

二月八日(水)

二年生は益子で抹茶茶碗作りを、手びねりで体験した。生徒たちは熱心に作品を作っていた。形を整えたり、すきまを作らないよう指で一つ一つつなげたりする作業は難しかったです。しかし、誠意をもって作品を作り上げることで、達成感を得られました。工場では機械が使われていたが、機械に頼ることの多い今こそ、手作業での伝統を受け継ぐ大切さを学びました。(播磨未智)

